

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○「チーム上中」として、全職員で安心安全な楽しい学校づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着のため、授業の工夫改善を図り、「わかる授業」の実践と、個に応じた指導の充実に努めます。</li> <li>・自尊感情の高揚とアイデンティティの確立のため、多文化共生の精神を柱とした人権教育と生徒主体の活動を推進します。</li> <li>・地域社会の一員であることを自覚し、様々な行事や活動に積極的に取り組み、社会に貢献できる心を育みます。</li> <li>・学習意欲や向上心の育成と、学校生活の安心安全のため、丁寧な生徒理解ときめ細かな生徒指導の充実に努めます。</li> </ul>	

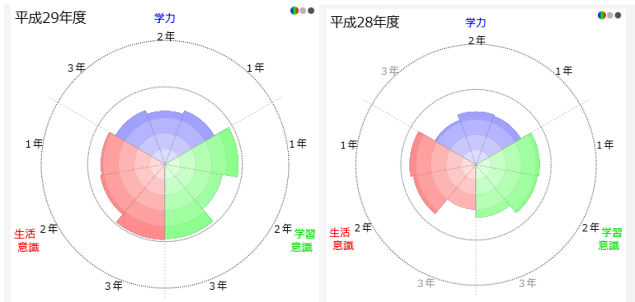
### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<p><b>確かな学力 (学習指導)</b></p> <p>担当 研究部門</p>	<p>授業の工夫改善を図り、「わかる授業」の実践に努める。「個に応じた指導」を充実させ、支援体制を整える。</p>	<p>①年2回のブロック内授業交流会や学力向上委員会等を充実させる。また、日々授業の工夫改善に努める。</p> <p>②国際教室や特別支援学習の授業に多くの教員や学習支援ボランティアがかかわり、基礎基本の学力向上を目指す。</p> <p>③英語科や数学を中心に少人数・TT指導を取り入れ、個に応じた指導や習熟度別指導の充実を図る。</p>

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析

- 教科学力が極めて低く、基礎的・基本的な知識技能の定着に大きな課題が見られる。学習言語としての日本語力の不足が要因の一つと考えられる。
- 生徒の学習に対する自信や自尊感情は低く、あきらめてしまう生徒や努力が持続しない生徒が多い。常に授業を工夫し、向上心や意欲を引き出そうと懸命に努力し、H29年度も前年度と比べ、若干ではあるが、学習意欲に向上が見られた。授業における様々な工夫や取組が、成果としてあらわれにくい状況がある。
- 学習保障や学力向上に向けて、より手厚い特別支援による個別学習や国際教室での日本語学習の充実が不可欠である。



### (2) 学校の状況・地域の実態

- 外国籍ならびに外国につながる生徒が70名在籍（全体の22%）し、関係する国も9か国に及ぶ。それらの生徒の中で、学習言語としての日本語指導を必要とする生徒が30名近くいる。
- 国籍にかかわらず、学習につまずきのある生徒や発達障害と思われる生徒が多く在籍しており、授業等で集中力が欠ける場面がよく見られる。
- 地域の方々や保護者は、学校の取組に対し協力的であり、理解がある。しかし、2割程度の保護者は日本語の正確な理解が難しく、母語通訳の支援を必要としている。

### (3) 継続的な課題

- 生徒一人ひとりが意欲的かつ落ち着いて学習に取り組めることを目的とした、個々に応じた丁寧できめ細かな生徒理解と生徒指導の継続。
- 生徒一人ひとりの自尊感情の高揚とアイデンティティの確立を目指し、多文化共生を柱とした人権教育および生徒の主体的な教育活動の実践と充実。
- 生徒の学習意欲を喚起し、基礎的・基本的な知識技能の定着につながる「わかりやすい授業」の実践と、自ら継続的に学習に取り組めるようにするための指導方法や評価方法の研究。

### 3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 国語

- 言語を通して、豊かな人間性や思いやりの心を育てるために、学習の習慣化を図り、基礎学力（まずは基本的な漢字・語彙の知識）を定着化させる。
- 日本語への関心を深めることによって、自分の考えを適切に表現する力を身につけ、自・他国の文化を尊重する態度を育てる。

#### 社会

- 基礎・基本の定着をはかるために毎時のはじめに前回の復習を取り入れる。
- 学習意欲を向上させるために導入を工夫する。
- 社会的事象についての自分の考えを深化させるための課題を定期的に行う。

#### 数学

- 基礎・基本の定着を図るために、少人数授業やTTにより生徒の疑問を個に応じた解決し、定着したそれらの力を実感できるようにする。
- 実生活の事象をとりあげ、数理的に考察したり、論理的に言葉で表したりする数学的活動を大切にし、授業ではその元となる知識や技能の定着に根気強く取り組む。

#### 理科

- スモールステップや繰り返し学習を活用して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- 実験を計画したり事象を説明したりする活動を計画的に取り入れ、結果の共有、考察の議論などにおいて協働的に学ぶ場面を設定する。

#### 音楽

- 生徒の実態にあわせ、音楽活動の充実に必要な基礎的・基本的能力の伸長を図る。
- 生徒同士が音楽の豊かさに気付き工夫しながら演奏を楽しめる学習展開を工夫する。

#### 美術

- 題材を通して伸ばしたい力を明確に示し、個々に生み出す主題を大切に制作させる。
- 生活の中に生きる美術の力を明確にし、生かす工夫を取り入れた授業づくりと、制作するうえで「見通す力・自己を正しく振り返る力」を大切に育て、自己実現の手立てとする。

#### 技術・家庭

- 生活体験、興味関心を把握し、生徒の実態に合わせた題材設定を行う
- 習得した知識と技術を活用し、生活の中で役に立つ技能を身に着ける学習を行う。

#### 外国語

- 運用力をつけるために、少人数授業やTTを生かし、学習の習慣化を図り、基礎的な知識を定着させる。
- 外国語学習への興味関心を高め、自ら積極的にコミュニケーションする力を伸ばし、それぞれの国の文化への理解を深める。

#### 特別活動

- 学級活動や生徒会活動、学校行事に主体的に取り組み、他人との関わりから自己有用感を得られるようにする。
- それぞれの活動から、問題を見つけ、その解決に向けて、話し合いや協力し合う活動を設定する。

#### 総合的な学習の時間

- 各学年で取り組む「ふれあい体験」など、各自で身につけた力を活用しながら探究的に学ぶことができるようにする。
- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究の過程が単元の中で何度も繰り返され、スパイラルに高まる学習過程になるようにする。

#### 個別支援学級

- 主体的に自立活動の学習に取り組むために、授業形態・集団構成を工夫し、習得した知識や技能を実生活に生かして、達成感を得られるようにする。
- 個別の指導計画に基づき、一人ひとりの実態に合った課題設定を行う。

保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。